

ブルジョアの深層を探る



株式会社岡三証券グループ 代表取締役社長
新 芝 宏 之 CMA

—三つの疑問—

社会の根底にある潮流に何か大きな変化が起こっていると感じているのは私だけではないだろう。英国における国民投票の意外な結果、米国の大統領候補の予想外の躍進など、一般大衆の不安や恐れ、怒りを利用して既存のエスタブリッシュメントに対峙するポピュリズムが、今、なぜ世界に広がっているのか。35年前、70年前、240年前に歴史を遡って考えてみたい。

<格差問題の始点は経済理論の誤りからか>

根底には、いわゆる「格差」問題が共通にありそうだ。世界に広がる不安定、成長鈍化、不平などを解決するために政策提言をしているジョセフ・スティグリッツ教授は、その格差の原因を約35年前の経済理論に遡る。1980年代以降のレーガノミクスを支え、規制緩和、減税、自由な市場経済を唱える「サプライサイド経済学」が間違っていたと断ずる。短期的な利潤と株主の利益に重点を置いた80年代以降のコーポレートガバナンスのモデル、つまり強欲な金融セクターと一対になった経営の短期主義を批判。大いなる安定に思えたものは、ITバブル、住宅バブルによる幻想であったとする。根底にある「技術革新」と「グローバル化」についても、ゆがんだルールの下で失業と賃金引下げをもたらした